

論 題 雑司が谷・御会式大祭調査
～祭りが生み出す街のまとまり～

指導者 葉袋 奈美子 専任講師

学籍番号 20719015

氏名 奥井 麻子

1. 研究の目的

東京都豊島区雑司が谷一帯の地域では秋に御会式という大規模な祭りをを行う。その実態調査を行い、この祭りが地域に与える影響を考察する。又、祭りが住民にとっての街との一体感をつくり得ているのであればその仕組みを明らかにする。

2. 御会式と練供養行列について

御会式は日蓮宗の宗祖日蓮の命日に行われる供養儀式である。雑司が谷のお会式は10月16～18日の3日間で行われ、観光客を含めた総動員数は約30万人、練供養行列の参加者は5千人を超える。祭りの内容としては寺での法要儀式と平行して、近隣の住民が講と呼ばれるグループで太鼓打ち鳴らし万灯^{*1}を掲げながら街を練り歩く。最も大規模な最終日の行列は他地域からの遠征講社も加えて池袋駅を出発、明治通り・目白通りを南下して最終的に鬼子母神堂と法明寺への参拝を行う。

3. 研究の方法

3-1 ヒアリング調査

お会式関係者へお会式と街への意識と新規参入者の実態についてヒアリングを行う。

3-2 各講の分布地図作成

各講社が公表する奉納者・奉納商店を地図上にマッピングし、各講の奉納者の分布地図を作成する。

3-3 複数講社への奉納

1商店が1以上の講社に奉納を行う状況を調査する。

4. お会式と街の人々の関わり

4-1 御会式を含む街の活動の相関関係

ヒアリングと文献研究から明らかになったお会式やその他の街の行事に関わる人や組織の相関図を図1に示す。御会式によって生まれた組織が他の活動を運営している事例があることや、お会式以外の活動にもお会式関係者が存在することが分かる。又、これらのイベントはお会式を筆頭に地元の人々がなんらかの形で関わっている。この地域で暮らす多くの人にとってお会式は共通の話題であることが分かる。

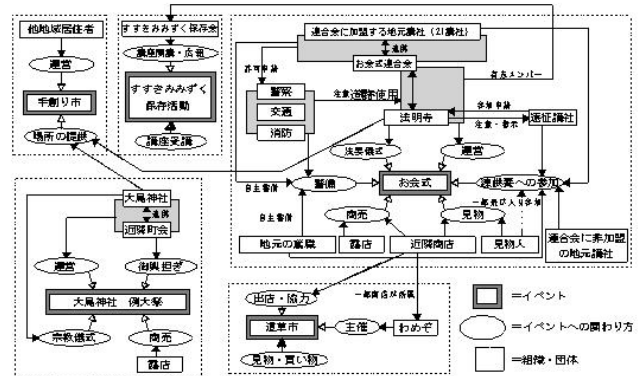


図1-御会式を含む5つのイベントの相関図

図2は御会式の準備・片付けの様子である。運営幹陣による通年の定例会等によって活動が成り立っていることや、祭りが近づくにつれて講ごとに行われる準備・片付けには子供から高齢者までが参加しており彼らの交流の機会となっていることが分かった。又、古参者は新しく入った人に技術を教えたり、若い人もこれらの活動の中でリーダーとなり子供の面倒を見ていた。それが当事者にとって地域内に居場所を作ることとなったり、新規参入者への敷居を低くしていると推測される。

時期	内容 (右側は詳細・補足)	参加する人
全 体	年間を通じて毎月1回 定例会 (時期に応じた準備の段取り案内・話し合い) 別) 予算・収支報告 協賛者への挨拶分担	交通 消防 警察 法明寺 21講社の代表者 連合会 地元の職人 花道中 講ごとの活動 講ごとの活動 (講家披露)
準 備	9月末の土・日(2日間) 全体会議 ・挨拶 ・練り供養順番決の抽選会 ・注意事項伝達	講員 相談役 世話人 サポートメンバー 若い世代の参加を楽しむ人々
片 付 け	祭り期間直前 太鼓の練習 (鬼子母神堂にて子供も多数参加)	男性 注にお借り場の組立・万灯の組立 力仕事や高所の仕事を男性が行う。若い人は仕事を教わる。
片 付 け	10月初め お借り場設営 (遊路沿い等に万灯置場設営)	女性 主に花折り・料理 世間話で盛り上がりながらの作業。ベテランの方は若い人に作り方を教える。
片 付 け	10月初め 花折り花開き (1日～2日で仲間内で指舞う。おでん等)	子供 花道を手伝ったり万灯組立の見学も
片 付 け	前日 料理 (講内の休場所等で400個以上の万灯を飾る花を制作)	高齢者 世間話をしながら経験上のアドバイス
片 付 け	祭り期間直後～週間位 お借り場解体 (解体した万灯の花は希望者に配る。)	

図2-準備・片付けの内容と関わる人々

4-2 各講社の奉納商店分布地図

図3に各講社への奉納者(商店のみ)の分布地図を示す。この図はデータを得られた12講社へ奉納した商店を309件マッピングしたものである。図3からお会式に関係する商店は幹線道路等によって区切られず、広い範囲に分布していることが分かる。又、図3の範囲に入らなかった商店が20件近くあり、中心地から離れた場所からも参加している商店がある。これは、講社が基本的に地縁的な繋がりで発生しながらも、商売上の関係や友人との繋がりといった人の活動による繋がりによって広がっていくことから起きている現象であると考えられる。

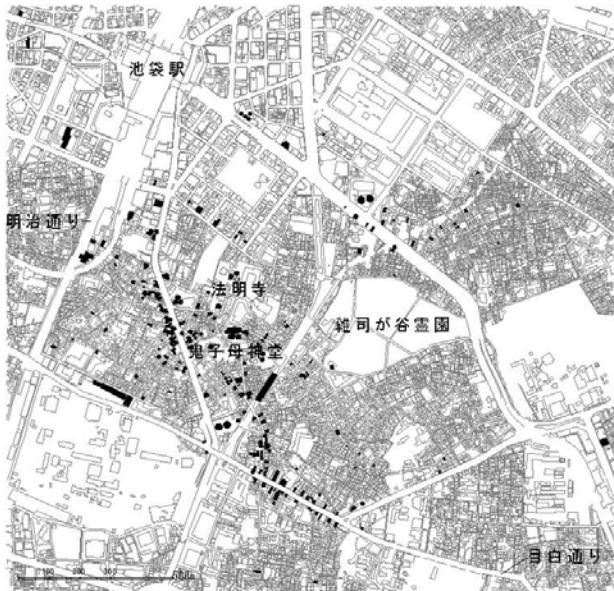


図3 各講社の奉納商店

図4は図3の内、活動が盛んなエリアの一部を拡大し、奉納者が集中しているエリアを楕円で、1つの商店が複数の講社に奉納をしている状況を講ごとのマークで示した。この図から各商店は商売上の関係や近所付き合い等によって、複数の講社に奉納をしていることが分かる。2講社への複数奉納が最も多いが3, 4講社への奉納も見られ、図の範囲外ではあるが10講社以上への奉納を行うケースも見られた。又、講社によっては日常的に情報を交換しあったり、困ったことがある時には協力をし合っているようだ。^{*2}さらに、データ全体では、個人名で複数講社に奉納をしているケースも35件認められ、商店だけでなく個人のレベルでも講社間に繋がりがあることが分かった。

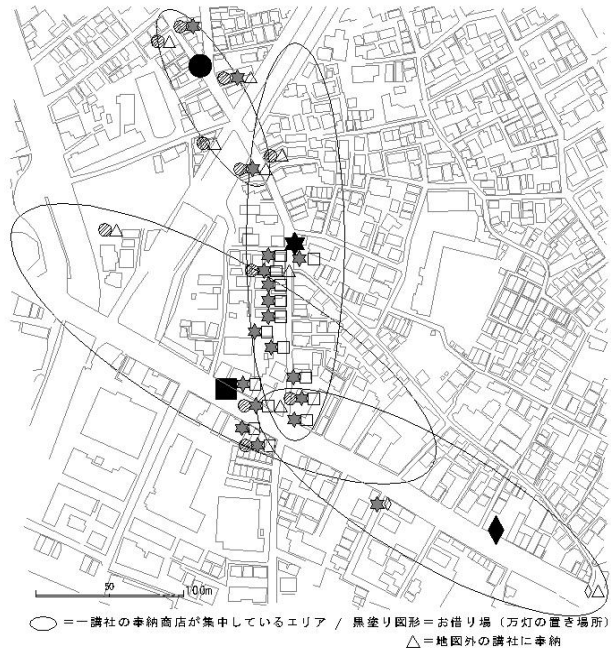


図4 - 商店の複数講社への奉納の状況

4-3 新規参加者に関するヒアリング

表1はお会式関係者への新規参加者に関するヒアリングである。この2つの表から御会式は、新規参加者にとって敷居が低く、
 表1 - 新規参加者へのヒアリング
 又、長くこの土地に暮らし今までのお会式を担ってきた人々が新規参加者を迎え入れる気持ちと態勢もっていることが言える。

	新しく来た商店		
	商店D	商店E	商店F
基礎情報	創業 約1年	創業 約1年	創業 約3ヶ月
お会式への関わり方	過去一度参加	練供養に参加	奉納、宴会
新規参加者に関して	・知り合い、近所の人に頼む ・家は他地域だが、子供と参加 ・新しい人を受け入れる性格がある	・色々な方法で参加できるので入りやすい ・良い意味でゆるい	・新しい人を受け入れる量がある ・敷居の低さは町の人達が作ってくれている ・最初は怖い印象

表2 - 古参加者へのヒアリング

	法明寺	御会式連合会	講社	古くからある商店		
				商店A	商店B	商店C
基礎情報	創建 699年	設立 33年	21講社が連合会に所属	創業 約90年	創業 約90年	創業 約60年
お会式への関わり方	主催・運営	運営	万灯行列の主役	所属講社の中心的存在	所属講社のおまじなひ全過程参加	期間中も商売
新規参加者に関して	・受け入れが大切 ・講社の独立も許す気風がある	・参加希望者に誘いを紹介 ・後進を育てることが大事	・子供ばかりで親が参加(講社) ・参加募集の張り紙をしている(講社B)	・新しい人の参加はありがたい ・他地域の友人を誘う	・賛成 ・他地域の友人を誘う	・そういうための祭りでは ・外国人も増えてきた

5. まとめ

以上の結果から、御会式は当地域の多くの人にとって暮らしに深く根付いた存在であり、人々の間にゆるやかな繋がりを生み出しているといえる。

参考文献 『祭りの宗教性』 編集・発行 弓山達也 他 2001

『ゼンリン住宅地図東京都豊島区』(株)ゼンリン 2009

*1 高さ3m近い灯籠提灯で、練供養行列の主役。周りを花紙で飾る。

*2 表2内・商店Aへのヒアリングより